

清水資料館収蔵品一括

(しみずしりょうかん しゅうぞうひん いっかつ)

板橋区登録有形民俗文化財(民俗資料) 昭和62年2月27日登録

所在地：板橋区宮本町54-1

交通：都営三田線「板橋本町」駅徒歩8分

国際興業バス「清水町」徒歩5分

[池袋駅西口⇄高島平操車場・高島平駅(池20・21)]

[赤羽駅西口⇄池袋駅東口・日大病院(赤51・57)]

宮本町にある稲荷神社の境内には清水資料館があります。当館は清水地域の旧家である板橋弥一氏の納屋が解体された際に、納屋に収納されていた民具や農具など125点を保存することを目的として、昭和59年(1984)、地元の有志の浄財によって鎮守である稲荷神社に建てられました。同61年度には収蔵資料を一括し、区の文化財としています。

清水は旧前野村の一部で、古くは文安5年(1448)の史料(米良文書)に「しみつ」と見られるのがその初見である可能性があり、古くから清水が湧出する「出井」が地名の由来とされています。文化8年(1811)には、釈敬順しやくけいじゆんが当地を訪れ、出井の泉で煎茶を立て、その帰途に種子屋の「清水(板橋)権右衛門」家に立ち寄っています。当時、清水から志村にかけては「清水夏大根」とその種子の特産地として有名で、中山道を通じ上方かみがたまで販路を広げていました。当館の資料群は清水地域で盛んであった農業の一端を示す資料として重要なものです。

